

ローマ人への手紙 13 章 1-7 節私訳と関連聖句

12 章 14-21 節抜粋 「祝福しなさい、あなたがたを迫害する者を…自分で復讐することなく、御怒りに場所を空けなさい…悪に打ち負かされてはなりません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい(悪を打ち負かしなさい)」

13 章 1 節 「すべてのたましいは 上に立つ権威に支配されなさい(ESV、NRS 訳: Let every person be subject to the governing authorities)。神によるのでなければ権威は存在しないからであり、存在している権威は神によって立てられているからです」

13 章 2, 3a 節 「したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従っているのです。そして従っている者は自分の身にさばきを招くこととなります。それは、支配者を恐れているのは、善いことを行っているときではなく、悪を行うときだからです」

13 章 3b, 4 節 「しかし、あなたは権威を恐れたくはないと望んでいませんか？それならば、善を行いなさい。それであなたは彼らから称賛を受けることになるからです。それは、彼があなたに善をもたらすために、神に仕える者 (minister, deacon) だからです。しかし、もし、あなたが悪を行うことがあるなら、恐れなさい。彼は理由もなく剣を帯びてはいないからです。それは彼が神に仕える者 (minister, deacon) であって、悪を行う者に対しては怒りをもって報いるからです」

13 章 5-7 節 「それゆえ支配される(従う)必要性があります、それは御怒りのためだけでなく、良心 (conscience) のためにもです(良心のためにも従うべきです)。

そのために税金も納めることとなります。彼らは神への奉仕者(神の公僕)だからです。それは彼らがそのことに専念するためです。すべての人に対しての責任を果たしなさい、税を納めるべき人には税を、関税を納めるべき人には関税を、恐れるべき人を恐れ、敬うべき人を敬うことによって」

< 関連引用聖句 >

(ヨシュア 1:5,6) 「あなたの一生の間、だれ一人としてあなたの前に立ちはだかる者はいない。わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる。わたしはあなたを見放さず、見捨てない。強くあれ、雄々しくあれ。あなたはわたしが父祖たちに与えると誓った地を、この民に受け継がせなければならないからだ」

(エレミヤ 27:12) エルサレム最後の王ゼデキヤに対する主(ヤハウェ)のことば 「あなたがたはバビロンの王のくびきに首を差し出し、彼とその民に仕えて生きよ」

(エレミヤ 51:24) 主(ヤハウェ)のことば 「わたしはバビロンとカルデアの全住民に対し、彼らがシオンで行ったすべての悪に、あなたがたの目の前で報復する」

(マタイ 5:39-41) イエスの山上の垂訓 「悪い者に手向かってはいけません。あなたの右

の頬を打つ者には左の頬を向けなさい。あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着も取らせなさい。あなたに一ミリオン(1500m) 行くように強いる者がいれば、一緒に二ミリオン行きなさい」

(ルカ 23:28) イエスが十字架刑に向かうとき「エルサレムの娘たち、わたしのために泣いてはいけません。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのために泣きなさい」

(ヨハネ 18:22,23) イエスが平手で頬を打たれたときの反応 「イエスは彼に答えられた。『わたしの言ったことが悪いのなら、悪いという証拠を示しなさい。正しいのなら、なぜ、わたしを打つのですか』」

(使徒 23:1-5) パウロがユダヤの最高法院で尋問を受けた際、大祭司が彼のそばに立っていた者に、彼の口を打つように命じたときのこと。そのときパウロは大祭司に向かって、「白く塗った壁よ。神があなたを打たれる。あなたは律法にしたがって私をさばく座に着いていながら、律法に背いて私を打てと命じるのか」と抗議した。そればかりかその後の展開が、「彼らの一部がサドカイ人で、一部がパリサイ人であるのを見てとって、最高法院の中でこう叫んだ。『兄弟たち、私はパリサイ人です…私は死者の復活という望みのことで、さばきを受けているのです』」と描かれている。それで大論争が起き、裁判できなくなった。

(マラキ書) 「神に仕えるのは無駄だ」(3:14)と思う人が「悪を行う者もみな主(ヤハウェ)の目になつている。主は彼らを喜ばれる。いったい、さばきの神はどこにいるのか」(2:17)と言ったことに対し、主に信頼する行為が報われることが「十分の一をことごとく、宝物蔵に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしを試してみよ一万軍の主(ヤハウェ)は言われる一わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか」(3:10)と言われる。

(詩篇 73:21,22) 「私の心が苦みに満ち、私の思いが突き刺された時 私は愚かで考えもなく あなたの前で 獣のようでした」

(詩篇 49:20) 「人は栄華のうちにあっても 悟ることがなければ 滅び失せる獣に等しい」

(マタイ 22:17-22) イエスはパリサイ人から、「カエサルに税金を納めることは律法になつていのでしょうか、いないのでしょうか」と尋ねられ、「税として納めるお金を見せなさい」と反対に彼らに迫った。そこで彼らが持ち歩いてきたデナリ銀貨を見せると、イエスは「これはだれの肖像と銘ですか」と尋ねられた。彼らが「カエサルのです」と答えると、イエスは「それなら、カエサルのものはカエサルに、神のものは神に返しなさい」と言われ、彼らは「驚嘆して…立ち去った」

(使徒 5:29) ペテロと使徒たちが、キリストの復活の福音を宣べ伝えることを禁じられたときに、恐れることなく、「人に従うより、神に従うべきです」と答えた。